日本医療機能評価機構認定病院

那珂川病院だより

病院理念 ― 思いやりそして努力　奉仕そしてよろこび

VOL.68 平成30年1月

〒811-1345 福岡市南区向新町2丁目17-17
TEL.092-565-3531（代）
FAX.092-566-6460
http://www.nakagawa-hp.com
（携帯電話でもご覧いただけます）

新理事長の挨拶

那珂川病院　理事長・院長　下川敏弘

あけましておめでとうございます。

私は、平成6年4月に当院に入職し、今年で24回目の正月を迎えました。前院長の木村専太郎先生の指導を受けながら平成9年に副院長となり、木村先生の後を引き継いで平成13年4月に院長となり、早17年目となりました。そして、昨年6月の理事会で理事長の大役を仰せつかりました。前理事長は32年もの間勤められ、現在の当法人の原型を作っていただき、理事長を辞められた後も会長として残っていただいています。その30年余りの間に当法人は職員数でも事業規模でもほぼ３倍となっています。

「思いやり そして 努力　奉仕 そして よろこび」という当法人の理念は会長が作られたものです。医療人というより社会人あるいは人間としてのあり方を示す言葉としていつも心にとめています。特に最後の「よろこび」が好きです。人生、楽しく喜んで物事に対処することが何事でも大切だと思っています。

様々に医療の形態があり、いろいろな地域の方々の疾病があり、それをうまく思いやりをもって適合させるのが私たち医療人の務めです。また、チーム･社会の中で人の成長、平和、幸福を願うことも大切です。現在の医療体制の変革が内的にも外的にも迫られているこのときに理事長となり、とても重大な役割に緊張している自分を感じています。職員みんなが実力を十分に発揮できる環境を整えることが私にとっては大切です。それが地域に貢献することにつながると考えます。

ところで、私は昨年、還暦を迎え年だけは取ってきましたが、力量不足もいいところだと思っています。しかし、会長が理事長になられた時よりは一回りも年かさがいっているのも事実です。一所懸命に頑張るしか能はありません。皆様のご支援を仰ぎながら努力して参ります。どうぞ、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

ロウバイ

緩和ケアだより

母との想い出

工藤 昌子（工藤 ツヤ子氏長女）

母がこちらの緩和ケア病棟で約1年近くお世話になりました。

この緩和ケア病棟では1年というのは長いほうだったのかと思います。

今、亡くなってからやっと1年が経ったところです。

入院中は1日をのぞいて毎日通いましたが、自分でもよく続いたなあと思います。

母のリクエストで、毎日のようにそうめんをゆがいて来て、レンジで温めにゅうめんを食べさせたり、りんごをすりおろして食べさせたりしていました。

少し強い薬を使い始めてからは、性格が変わったかのように反抗的になることもあって、戸惑うやら腹立つやら、実の親子で遠慮がない分よく口げんかもしていて、看護師さんに「優しくしたいけどなかなか出来ないんです」と相談したこともあります。

でも喧嘩をするうちが花で、最後のほうは喧嘩さえ出来なくなりました。

そんな中、容態が急変し、復活し、又急変し、持ち直してを繰り返しながら少しずつ弱っていくのを見ながら、色んな感情が交錯していました。

勿論いつまでも生きていてほしいと思うその反面、自分で寝返りもうてず、食べたいものも食べれず、一番嫌いだったオムツの状態を早く楽にしてあげたいという気持ち、この状態がいつまで続くんだろうという気持ち。

入院してから数カ月経った頃から、時々私が帰る時に、ベッドから手を差し出して手を握ろうとしました。きっといつお別れが来るかもしれない、不安だったんだろうと思います。でも、その母の手を握ると、私のほうが涙がこぼれそうで、いつも誤魔化して帰っていました。本当は、手を握り返してやりたいけど「ゴメン」という気持ちで。

「早くお迎えがくればいい」と言うこともありましたが、今思えば一度も涙することもなく、強い母でした。

最期の日は、昼前から病院に来てずっと付いていたのに、夕方ほんのちょっと買い物に出た間に、戻ったら息を引き取っていました。

先生からは「いつどうなってもおかしくない状態です」と言われてわかっていたつもりでしたが、あまりにもあっけなく、しばらくは涙も出ずに、ポカーンとしてしまい母の横に座っていたように思います。テレビで見るような「お母さ～ん」と言うのはありませんでした。

母は事前に自分で選んで、こちらの緩和ケア病棟に入ることが出来ました。

仕事もしながら、食事、お風呂、排泄の世話など、自宅ではとても面倒は見られなかったと思います。看護師さんには、患者だけでなく、家族にも疲れていないかと声をかけてもらったり、相談にのってもらったり、本当に感謝しています。

ここで入院していなければ出会うことがなかった看護師さんやスタッフの方々、この場にいらっしゃる方々、これも母が残してくれた縁だと思います。

母は亡くなりましたけど、こうやって縁を作ってくれたこと、縁が繋がっていくことで、母は私の中で生きていくのかなぁと思います。

（平成29年11月8日　偲ぶ会スピーチより）

ボランティアだより

生バンドで一緒に楽しみましょう!

皆さん　こんにちは！

気持ちは青春、音楽大好き5人組が集まり一昨年4月バンド・デビューを果たしました“**ハッピートーンズ(幸せ音色)**”です。

私達は3つのモットー「**①皆さんと一緒に楽しむ ②心を込めて笑顔で歌う ③難しい曲は避ける**」の実現を目標に、童謡・唱歌・昔懐かしいフォーク・ポピュラー音楽・歌謡曲など、子どもさんからご老人まで親しみのある曲を中心に子ども病院、老人ホーム、公民館などでの演奏を楽しんでおります。

那珂川病院で演奏することになりました経緯は、一昨年3月中旬、那珂川病院緩和ケア科の月江教昭先生と共通友人主催のホームパーティーで偶然出会った際、厚かましくも演奏会につき相談したところ快く引き受けてくださり、一昨年10月27日(木)に続き昨年はハロウィンと重なる10月31日(火)に2回目の演奏会(11曲約30分)を実現出来た次第です。病院関係の皆様にはこの場をお借りして、これまでのご支援ご協力に対し改めて御礼申し上げます。

今回も私達の歌と演奏を少しでも楽しんでいただけたら良かったのですが…？

今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

ハッピートーンズ：(写真向かって左から)
磯本昌章、原田秀夫、園田浩子、神敏之、栄恵助

ボランティアスタッフは随時募集しております。興味のある方、お気軽にご連絡ください。

お問合わせ先：
ボランティアコーディネーター
山下 公子

緩和ケア病棟施設概要

病室：全病床24床で全室個室です。
室料あり　7室、 室料なし　17室

その他の設備：食堂・談話室、ファミリーキッチン、家族控室(宿泊可・有料)、面談室、説明室、介護浴室、一般浴室、洗濯コーナー

緩和ケア病棟へのご入院について

- 主に、治癒が望めないと判断された悪性腫瘍の患者さんをケアします。
- 患者さんまたはご家族が病名・病状について理解していることが入院の条件です。
- 体調が安定したら、外泊したり、退院して緩和ケア外来に通院したり、在宅ケアを受けることもできます。訪問診療は当院の医師、訪問看護は当院の訪問看護ステーションが担当します。

緩和ケア外来・相談のご案内

緩和ケア外来を受診される方や入院の相談や見学を希望される方は、必ず電話予約をお願いいたします。

- 電話受付時間　**平日 9:00～17:00　TEL 092-565-3531(代)**
  連携室の看護師かMSW(相談員)が対応します。

- 緩和ケア外来　受付時間 **(予約制)** **月・火・水・木　14:00～16:30**
  金　9:00～11:30
  外来通院での緩和ケアを行います。緩和ケア病棟退院後の診療も行います。

入院費について
医療費は、健康保険制度による給付割合に従った料金です。
高額医療給付制度の適用があります。

病棟イベント ～ひな祭り～

感染症、きほんのき

感染症とは何でしょう

感染症は、病気のもとになる微生物（病原体）が、体の中に侵入して起きる病気です。おもな病原体となる細菌やウイルスは、空気中や水、土壌、動物など、私たちの身近に潜んでいます。

感染症と似ていますが何となくわからないのが、炎症という言葉です。炎症とは、細菌やウイルスが体内に入り込んで、体がそれに反応している状態です。赤くなったり、熱を帯びたり、腫れたり、痛くなるのが、炎症が起きているサインです。

病原体は、どのような経路で、人間の体の中に入ってくるのでしょうか

細菌やウイルスは種類によって遠くまで届くものと届かないものがあります。これは、細菌やウイルスがつくる粒子の大きさに違いがあるからです。

粒子の小さいものは、空気中を長い間ふわふわと浮かんでいるので、空気の流れによって遠くまで運ばれ、感染をおこします。これを空気感染といい、結核菌、麻しんウイルス（はしか）、水痘ウイルス（みずぼうそう）などが原因になります。感染者のすぐ近くにいなくても、同じ部屋にいるだけで感染することもあります。

大きな粒子をつくるものは、咳やくしゃみの時にせいぜい1mほどしか飛びません。これは飛沫（ひまつ）感染といい、インフルエンザウイルスやムンプスウイルス（おたふくかぜ）、風しんウイルス、レジオネラ菌などが原因になります。飛沫感染は、マスクをして咳やくしゃみの飛沫を防ぐ

感染対策委員会　内科　立元 貴

ことが、感染予防でもっとも重要です。

残りの感染症はたいてい指や食品、器具に付着した菌やウイルスがうつっていく接触感染です。胃腸炎の原因になるノロウイルス、大腸菌、院内感染の原因になるMRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）や緑膿菌などが、接触感染でうつります。接触感染を防ぐには、手洗いがもっとも有効です。

感染症は、原因になる細菌やウイルスによって感染のしかたが異なり、それに応じた予防法が必要になります。

薬が効かない菌が増えています

細菌の増殖を抑制したり殺したりすることで感染症を治す薬を、「抗菌薬」といいます。抗生剤や抗生物質ともよばれます。抗菌薬の使い方を誤ると、細菌は薬の効かない「耐性菌」に変化します。耐性菌が増えると、感染症の治療が難しくなり、重症化し亡くなる可能性も高くなります。とくに、免疫力の弱い高齢者や乳幼児が危険にさらされることになります。抗菌薬は、医師や薬剤師の指示を守って、自己中断したり、自分で量を調整したりするのはやめましょう。

病院で行っている感染予防

私たち、医師や看護師などの医療関係者は、患者さんと接する時に、マスクや手袋をつけたり、ガウンをかけたり、手指を消毒しています。これは標準予防策といい、私たちが病院ですべての患者さんに行っている感染対策です。「すべての患者さんの血液、体液、分泌物、嘔吐物、排泄物などは、感染する危険性があるものとして取り扱わなければならない」という考え方を基本としています。

こうした感染対策により、患者さんから別の患者さんへの感染を守ることができます。

病院には抵抗力の弱った患者さんが入院していますので、発熱や咳、下痢などの症状がある方のお見舞いは、病院内に病原体を持ち込み、患者さんに感染症を広げる危険性がありますので、ご注意ください。

くらしと医療の相談室、始めました。

くらしと医療の相談室　植木　昭代

2017年4月から、1階南玄関を入りましてすぐ左に、「くらしと医療の相談室」なるものを開かせていただきました。部屋の入り口には５鉢の植物が茂っていますので、「不自然！？怪しい」と思われるかもしれません。ささやかなる癒やしと、あまり人目に付きたくない方への配慮のつもりです。

「自販機コーナー」がなくなった！ と残念に思っておられる方、申し訳ございません。しかしご安心ください。その自販機、相談室の前にもございますが、各階の談話室等に設置いたしております。

私はこれまで緩和ケア病棟の管理者として、多くの方と出会い・別れを繰り返してまいりました。そこで教えていただいたことの1つです。自分の人生は自分で決めたい。自分で決めることができるためには、正しい医療や介護の知識をなるだけ早期に、たくさん知りたいということです。その方の価値観に沿う選択が自分自身で行えるために、わかりやすく説明し、一緒に考える人が必要だということでした。

ご家族同士では、どうしても、思いやりや遠慮、申し訳なさや悲嘆などの感情が入り交じって、素直に話せないこともございましょう。時に「息子に負担をかけたくないから、病気のことは言ってないよ」と言われる方もいらっしゃいます。そんな時でもそっと背中を押せる医療者になりたいと思うのです。

日本は超高齢化社会を迎えます。せわしなく過ぎゆく日々の生活の中で大切な忘れ物をしていないか、時に振り返ることも必要です。与えられた人生、残り時間がどれほどあるかは誰にもわかりません。ただひとつ言えることは生きとし生けるもの、必ず終わりがくるということ。そのさだめを素直に受け入れ、1日1日を大切に生きること。私達がすぐに実行できることではないでしょうか。

「くらしと医療の相談室」。今はがんに特化した相談が主ですが、何でも結構です。どうぞのぞいてみてください。

新任医師のご紹介

麻酔科

井上　彰子

こんにちは、初めまして。

平成29年8月よりお世話になっております井上彰子と申します。

私は平成17年に大分大学を卒業後、浜の町病院で多くの手術麻酔を経験してまいりました。その経験を生かし、那珂川病院で手術を受ける患者さんの不安や痛みを少しでも取り除き、手術を万全の状態で受けていただけるようサポートできる麻酔科医を目指していきたいと思います。また、那珂川病院では外来診療や健康診断など、今まで携わることのなかった業務も勉強していきたいと思いますので、ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

【交通】西鉄バス系統番号4番・47番・62番・620番「那珂川病院前」下車すぐ
■駐車場150台

常勤医師診療担当表　平成30年1月1日現在

医師名	担当領域
下川　敏弘(院長)	外科・呼吸器外科
大内田　敏行(副院長)	放射線科
吉村　寛志(副院長)	外科・消化器外科
古賀　健資	外科・健診科
古賀　善彦	外科・リハビリテーション科
髙松　祐治	外科・消化器外科・甲状腺科
井上　彰子	外科・麻酔科
齊田　光	整形外科
竹内　一馬	血管外科・循環器内科
行實　崇	人工透析・血管外科・皮膚科
中本　守人	脳神経外科
筒井　伸一	内科・消化器内科
安藤　智恵	内科・循環器内科
藤澤　正寿	内科・腎臓内科・人工透析
立元　貴	総合内科・糖尿病内科
大国　貴史	緩和医療・外科・漢方内科
月江　教昭	緩和医療・循環器内科
竹中　理	緩和医療